

中学生における所属する部活動と他の学校生活の関連性の検討

— 中学2年生を対象とした質問紙調査の分析から —

鈴木 翔・歌川光一・金澤貴之

群馬大学教育実践研究 別刷

第33号 107～114頁 2016

群馬大学教育学部 附属学校教育臨床総合センター

中学生における所属する部活動と他の学校生活の関連性の検討 — 中学2年生を対象とした質問紙調査の分析から —

鈴木 翔¹⁾・歌川 光一²⁾・金澤 貴之³⁾

1) 秋田大学大学院工学資源学研究科・東京大学大学院

2) 名古屋女子大学文学部

3) 群馬大学教育学部障害児教育講座

Examination of the Relationship Between Types of Extracurricular Activities and Other School Lives in Junior High School : an Analysis of the Questionnaire Investigation to the Second Grade of Junior High-School Students

Sho SUZUKI¹⁾, Koichi UTAGAWA²⁾, Takayuki KANAZAWA³⁾

1) Graduate School of Engineering and Resource Science, Akita University/
Graduate School, The University of Tokyo

2) Faculty of Literature, Nagoya Woman's University

3) Department of Special Education, Faculty of Education, Gunma University

キーワード：中学生、部活動、学校生活

Keywords : Junior High School Students, Extracurricular Activities, School Lives

(2015年10月30日受理)

1. 問題の所在

本稿の目的は、中学生における所属する部活動と他の学校生活の関連性を検証することである。本稿が部活動に着目するのは、中学生の部活動は、彼らの学校生活の中心に据えられているにもかかわらず、部活動の活動形態によってその活動が他の学校生活とどのような関連性を持つのかということが、これまでの研究では、実は十分に明らかにされてはいないのではないかと考えられるからである。

藤田(2006)によれば、2001年時に特別活動「クラブ活動」の部活動による代替を行っていた東京都の中学生の部活動加入率は約9割であり、自由加入の鹿児島県の加入率は約6割であったという。この結果を

もって、藤田は部活動加入率の高さは、部活代替制度によるものだと結論づけているが、たとえ部活動を強制していなかったとしても、半数以上の生徒が部活動に加入しているという結果を過去に部活動に関わっていた生徒(退部等)も含めて考慮すると、多くの中学生が部活動に関わりを持っている(あるいは持っていた)ことが想定できる。

現在もなお、部活動はクラブ活動の代替ではなく、教育課程の外にあるが、学習指導要領においては、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。」(文部科学省 2008)とし

て、教育課程に影響を及ぼす重要な活動として捉えられている。つまり、部活動は正規の教育課程ではないが、生徒の学校生活をよりよくするために必要な活動であると、現行の学習指導要領では規定されているということである。

しかし、これまでの研究においては、部活動によって生徒が得られる効果が「善きもの」であることは自明とされ（内田 2015）、それぞれの部活動が他の学校生活とどのような関連を持つのかは十分に検討されてきたとは言い難い。そして、部活動が他の教育課程と関連を持つのだとしても、部活動の形態は、スポーツや文化活動等さまざまであり、それぞれの活動内容によって、学校生活との関連の仕方は変化することが予想される。にもかかわらず、これまでの研究においては、部活動に加入している生徒と加入していない生徒の比較や、「運動部」「文化部」という区別をもってしか、学校生活の関連を捉えてはこなかったという現状がある。そこで、本稿では、部活動を活動形態に即して7つのカテゴリーに分類し、それぞれの部活動の特性と、部活動と学校生活の関連性を検証することを目的とする。

2. 使用するデータと変数の設定

本稿の分析に用いるデータは、東京大学教育学部比較教育社会学コースが、神奈川県公立中学校23校に通う中学2年生2874名を対象として、2009年10月から2010年1月にかけて実施した「神奈川県の中学生の生活・意識・行動に関するアンケート」である。対象校は、神奈川県を4つに分け、その中から選定されている。調査項目は、主に生徒の日常生活や対人関係の意識に関するもので、教室内での集団自記式と配布し

た調査票を後日持参してもらう方法を併用して調査票の回収を行っている。最終的な有効回収率は83.2%である。詳細な調査の概要は、東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse教育研究開発センター編『神奈川県公立中学校の生徒と保護者に関する調査報告書』（2011）にまとめられている。

当該データが、本稿の分析に適していると考えられる理由は、生徒が所属する部活動が自由記述によって回答されているため、部活動を「運動部」や「文化部」などの分類だけでなく、分析者の関心に合わせて自由に分類することが可能であることである。学校生活をどのように過ごしているかや友人関係に関する項目も豊富に設定されていることから、本稿の分析に適したデータであると考えられることができる。

本稿では、部活動の活動形態を考慮し、生徒が所属する部活動を7つのカテゴリーに分類した。その分類方法を以下に示す。まず、1つ目のカテゴリーは「音楽系部活動」である。

「音楽系部活動」は吹奏楽部、合唱部、音楽部など音楽活動に関わる部活動として分類している。2つ目のカテゴリーは、「芸術系部活動」である。「芸術系部活動」は美術部、演劇部、書道部など芸術活動に関わる部活動として分類している。そして音楽活動、芸術活動以外の活動を行う部活動として「その他文化系部活動」を設定した。「その他文化系部活動」には、科学部、家庭部、生活部など学術や家政などに関わる部活動が分類される。

そして、運動部は、「武道系部活動」「個人競技系部活動」「ラケット競技系部活動」「球技系部活動」という4つの分類によって、スポーツの形態に合わせて分類を行った。「武道系部活動」は、剣道部、柔道部、弓道部などが該当し、「個人競技系部活動」には、陸上部、

表1 各部活動への加入状況と男女比

	男子 (n=1442)	女子 (n=1392)	男子の 割合	女子の 割合
(文化部全体)	9.0%	38.5%	19.7%	80.3%
音楽系(吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	2.5%	18.2%	12.4%	87.6%
芸術系(美術部、演劇部、書道部など)	1.7%	15.7%	9.9%	90.1%
その他文化系(科学部、家庭部、生活部など)	4.9%	4.5%	52.6%	47.4%
(運動部全体)	80.8%	52.2%	61.6%	38.4%
武道系(剣道部、柔道部、弓道部など)	3.3%	1.6%	68.1%	31.9%
個人競技系(陸上部、水泳部、体操部など)	12.0%	8.1%	60.5%	39.5%
ラケット競技系(テニス部、卓球部、バドミントン部など)	20.0%	21.3%	49.3%	50.7%
球技系(サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	45.5%	21.1%	69.1%	30.9%
(部活動には所属していない)	10.2%	9.3%	53.1%	46.9%
全体	100.0%	100.0%	—	—

水泳部、体操部などが該当する。もちろん、陸上競技のリレーや水泳のメドレーリレー、体操の団体などは個人競技ではないと考えることもできるかもしれないが、これらの競技は個人の競技を合わせて、タイムや点数を競うものであると判断し、「個人競技系部活動」として分類している。そして、テニス部、卓球部、バドミントン部などラケットを使う競技を行う部活動を「ラケット競技系部活動」とし、その他の球技を行う部活動を「球技系部活動」として分類した。「球技系部活動」には、サッカー部、野球部、バスケットボール部、ソフトボール部などが該当する。

当該分類に合わせて、今回の調査対象者の部活動加入率と男女比を示したものが、表1である。これを見ると、今回の調査対象者では、全体で約9割の生徒が部活動に加入していることがわかる。また、男子の8割強と女子の5割強は、「運動部」へ所属しており、「文化部」への所属は女子で4割弱確認できるものの、男女どちらにおいても「運動部」の所属が多い傾向にあることが確認できる。また、男子では、「球技系」の部活動に所属している生徒が最も多く(45.5%)、次いで「ラケット競技系」(20.0%)「個人競技系」(12.0%)となっていることがわかる。逆に少ないのは、「芸術系」(1.7%)「音楽系」(2.5%)「武道系」(3.3%)である。女子では、「ラケット競技系」の部活動に所属している生徒が最も多く(21.3%)、次いで「球技系」(21.1%)「音楽系」(18.2%)である。逆に少ないのは、「武道系」(1.6%)「その他文化系」(4.5%)「個人競技系」(8.1%)である。これらの結果から、男子と女子では、加入する部活動に差があることが読み取れる。

さらに男女の比率を見ると、「音楽系」と「美術系」で女子の比率が高くなる傾向にあることが読み取れる。これらの結果から、部活動を分析する際には、男女別に考察する必要があることが考えられる。そこで、本稿では、活動形態別に分類した7つのカテゴリーをさらに男女別に分けて、他の学校生活との関連性を検討することとする。

3. 各部活動へのコミットメントと学校生活の満足度との関連性

本節では、部活動へのコミットメント、部活動への満足度、そして学校生活全体の満足度を7つの部活動

のカテゴリーの平均値を算出して検証する。

はじめに、各部活動のカテゴリーごとに、部活動へのコミットメントを示したものが、表2である。これを見ると、部活動に力を入れてがんばっていると回答している生徒が多いのは、「男子・音楽系」「女子・武道系」「女子・音楽系」「男子・球技系」の部活動に所属している生徒だということわかる。一方、部活動へあまり力を入れてがんばっていると回答していないのは、「男子・芸術系」「女子・その他文化系」「女子・芸術系」「男子・その他文化系」であることがわかる。ここから、男女ともに音楽系の部活は比較的部活動へのコミットメントが高く、芸術系の部活動は部活へのコミットメントがそれほど高くないという傾向がうかがえる。この2つのカテゴリーは、どちらもいわゆる「文化部」に属する部活動であることから、これまでの研究では見落としがちであった「文化部」内の差異が本分析から明らかになったといえるだろう。もちろん、音楽系部活動、とくに吹奏楽部に所属する生徒は、他の文化系部活動に比べ、コミットメントの度合いが高い傾向にある可能性が指摘されてきたが(竹内・本田・本田 2014など)、他の部活動との比較を通して、その状況があらためて確認されたということである。

次に、各部活動のカテゴリーごとの部活動への満足度を確認する。各部活動のカテゴリーごとの部活動への満足度を示したのが、表3である。表3を見ると、部活動に満足しているという回答が多いのは、「女子・音楽系」「女子・武道系」「男子・音楽系」「男子・球技系」などである。逆に満足していないのは、「男子・芸術系」「女子・その他文化系」「男子・その他文化系」「女子・芸術系」である。

先の表2の部活動にコミットメントしている部活動のカテゴリーと、表3の部活動に満足している部活動のカテゴリーは、傾向がほぼ一致していることがわかる。すなわち、部活動へのコミットメントが高い部活動に所属しているほど、部活動に満足しやすい傾向があることが読み取れるということである。試みに、部活動へのコミットメントを横軸に、部活動への満足感を縦軸に設定し、図に示してみると(図1)、ほぼ正の相関にあることが読み取れる。

では、各部活動の満足度と学校生活全体の満足度の関連性はあるだろうか。まず、各部活動のカテゴリーごとに学校生活全体の満足を示したものが、表4であ

表2 「部活動に力を入れてがんばっている」生徒の割合

		部活動に力を入れてがんばっている					合計	有効 度数
		とても あては まる	まあ あては まる	あまり あては まらない	まったく あては まらない			
男子	(文化部全体)	27.1%	45.0%	19.4%	8.5%	100.0%	129	
	音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	41.7%	55.6%	0.0%	2.8%	100.0%	36	
	芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	30.4%	26.1%	30.4%	13.0%	100.0%	23	
	その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	18.6%	45.7%	25.7%	10.0%	100.0%	70	
	(運動部全体)	49.6%	35.9%	10.3%	4.2%	100.0%	1164	
	武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	27.7%	57.4%	12.8%	2.1%	100.0%	47	
	個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	43.9%	36.4%	14.5%	5.2%	100.0%	173	
	ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	39.9%	37.5%	15.3%	7.3%	100.0%	288	
	球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	56.9%	33.5%	6.9%	2.7%	100.0%	656	
	(全体)	47.3%	36.8%	11.2%	4.6%	100.0%	1293	
女子	(文化部全体)	29.9%	46.5%	17.0%	6.7%	100.0%	531	
	音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	44.9%	46.1%	7.1%	2.0%	100.0%	253	
	芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	17.4%	47.0%	23.3%	12.3%	100.0%	215	
	その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	12.7%	46.0%	34.9%	6.3%	100.0%	63	
	(運動部全体)	45.7%	37.7%	11.6%	5.0%	100.0%	715	
	武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	36.4%	54.5%	4.5%	4.5%	100.0%	22	
	個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	45.1%	38.9%	12.4%	3.5%	100.0%	112	
	ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	47.1%	39.1%	9.1%	4.7%	100.0%	294	
	球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	45.2%	34.6%	14.4%	5.8%	100.0%	287	
	(全体)	39.0%	41.4%	13.9%	5.7%	100.0%	1246	

表3 「部活動に満足している」生徒の割合

		部活動に満足している					合計	有効 度数
		とても あては まる	まあ あては まる	あまり あては まらない	まったく あては まらない			
男子	(文化部全体)	33.1%	35.4%	22.0%	9.4%	100.0%	127	
	音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	51.4%	25.7%	17.1%	5.7%	100.0%	35	
	芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	26.1%	30.4%	30.4%	13.0%	100.0%	23	
	その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	26.1%	42.0%	21.7%	10.1%	100.0%	69	
	(運動部全体)	40.3%	34.3%	18.1%	7.3%	100.0%	1156	
	武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	42.6%	29.8%	19.1%	8.5%	100.0%	47	
	個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	36.8%	33.9%	21.1%	8.2%	100.0%	171	
	ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	36.0%	36.4%	17.5%	10.1%	100.0%	286	
	球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	42.9%	33.9%	17.5%	5.7%	100.0%	652	
	(全体)	39.6%	34.5%	18.5%	7.5%	100.0%	1283	
女子	(文化部全体)	29.2%	41.6%	21.5%	7.7%	100.0%	531	
	音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	36.8%	41.1%	19.4%	2.8%	100.0%	253	
	芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	22.8%	42.3%	20.9%	14.0%	100.0%	215	
	その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	20.6%	41.3%	31.7%	6.3%	100.0%	63	
	(運動部全体)	33.6%	37.8%	20.8%	7.8%	100.0%	715	
	武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	36.4%	40.9%	18.2%	4.5%	100.0%	22	
	個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	32.1%	37.5%	24.1%	6.3%	100.0%	112	
	ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	34.4%	42.5%	18.4%	4.8%	100.0%	294	
	球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	33.1%	32.8%	22.3%	11.8%	100.0%	287	
	(全体)	31.7%	39.4%	21.1%	7.8%	100.0%	1246	

る。表4を見ると、学校生活の満足感が高いのは、「男子・武道系」「女子・ラケット競技系」「女子・その他文化系」「女子・個人競技系」「男子・球技系」などである。先の分析で、部活動の満足感がそれほど高くなかった「女子・その他文化系」は、部活動への満足感低い、学校生活の満足感が高いという特徴を持つ部活動だということがわかる。逆に、学校生活への満足感が低いのは、「女子・武道系」「男子・その他文化系」「男子・芸術系」「男子・音楽系」である。部活動への満足感が高かった「女子・武道系」「男子・音楽系」は、部活動に満足している一方で、学校生活全体へは

満足していないという傾向を持つ。

ここで、部活動への満足感を横軸に、学校生活への満足度を縦軸に設定し、それぞれのカテゴリーの部活動を図に示すと(図2)、部活動の満足度と学校生活の満足度は、それほど関連が見られない様子が見られる。つまり、部活動の満足感が学校生活の満足度と関連を持つかどうかは、その部活動によるという結論が導き出される。この分析により、部活動に高くコミットメントしており、部活動への満足感が高かったとしても、必ずしも学校生活の満足感が高いわけではないことが示された。

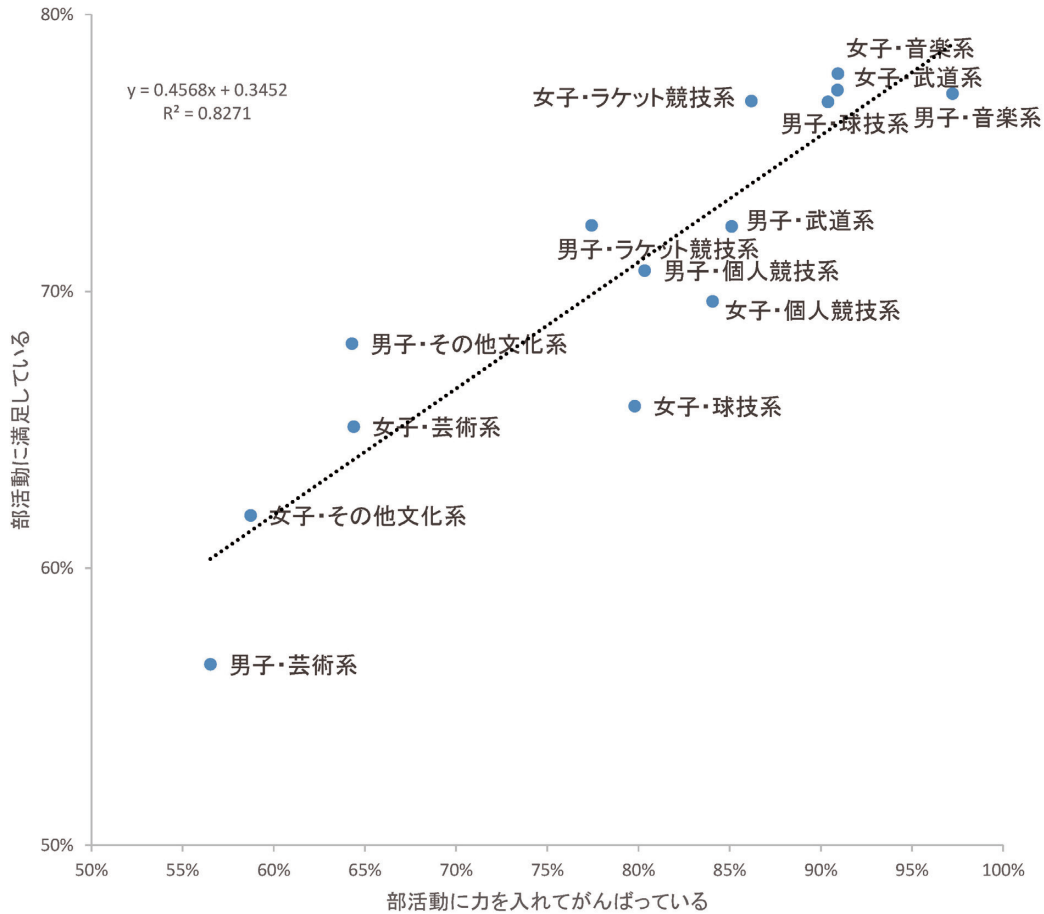


図1 「部活動に力を入れてがんばっている」×「部活動に満足している」

表4 「学校生活に満足している」生徒の割合

		学校生活に満足している				合計	有効度数
		とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
男子	(文化部全体)	14.6%	44.6%	30.0%	10.8%	100.0%	130
	音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	19.4%	44.4%	27.8%	8.3%	100.0%	36
	芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	20.8%	37.5%	25.0%	16.7%	100.0%	24
	その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	10.0%	47.1%	32.9%	10.0%	100.0%	70
	(運動部全体)	23.7%	50.1%	21.4%	4.8%	100.0%	1156
	武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	19.1%	61.7%	17.0%	2.1%	100.0%	47
	個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	22.2%	45.6%	26.3%	5.8%	100.0%	171
	ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	22.7%	50.7%	21.0%	5.6%	100.0%	286
	球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	24.8%	50.2%	20.6%	4.4%	100.0%	652
	(全体)	21.7%	49.4%	22.8%	6.1%	100.0%	1286
女子	(文化部全体)	14.1%	54.6%	23.4%	7.9%	100.0%	531
	音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	15.7%	53.5%	25.2%	5.5%	100.0%	254
	芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	11.2%	54.9%	20.9%	13.0%	100.0%	215
	その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	17.7%	58.1%	24.2%	0.0%	100.0%	62
	(運動部全体)	21.7%	51.9%	21.7%	4.8%	100.0%	725
	武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	13.6%	40.9%	31.8%	13.6%	100.0%	22
	個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	25.9%	49.1%	20.5%	4.5%	100.0%	112
	ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	20.5%	57.9%	17.5%	4.0%	100.0%	297
	球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	21.8%	47.6%	25.5%	5.1%	100.0%	294
	(全体)	18.7%	52.2%	22.9%	6.1%	100.0%	1256

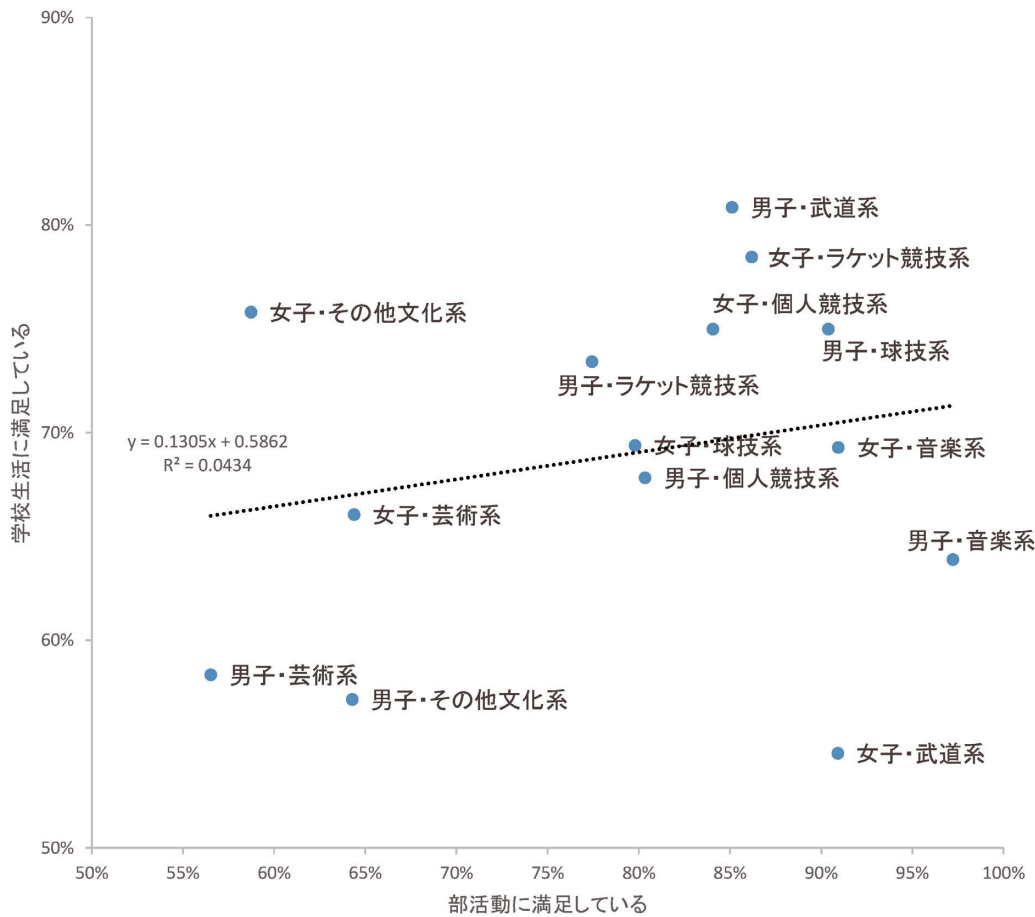


図2 「部活動に満足している」 × 「学校生活に満足している」

4. 各部活動の友人関係と学級の友人関係の関連性

本節では、各部活動への特色と、学校生活の関連を検証する。まず、部活動の категорияごとのクラス内友人数と、部活内友人数を比較したものが、表5である。表5を見ると、クラス内の友人数が多いのは、「男子・個人競技系」「男子・球技系」であり、少ないのは「女子・芸術系」「女子・武道系」「男子・その他文化系」などであることが確認できる。そして部活内の友

人数が多い、部活動の category は、「男子・球技系」「男子・個人競技系」であり、逆に部活内友人数が少ないのは、「男子・芸術系」「女子・その他文化系」「女子・芸術系」などである。

この2つの関係を図に示したのが、図3である。これを見ると、「男子・球技系」や「男子・個人競技系」の部活に所属している生徒は、クラス内の友人も多く、さらに部活内の友人も多いことが分かる。また部活内の友人は少ないが、クラス内の友人が多い「男子・武

表5 クラスの友人数と部活動の友人数

	男子		女子	
	クラス内友人数	部活内友人数	クラス内友人数	部活内友人数
(文化部全体)	6.845	6.492	6.157	7.047
音楽系 (吹奏楽部、合唱部、音楽部など)	8.371	8.314	6.671	8.812
芸術系 (美術部、演劇部、書道部など)	6.250	4.304	5.502	5.620
その他文化系 (科学部、家庭部、生活部など)	6.286	6.300	6.381	4.903
(運動部全体)	9.539	9.818	7.181	7.936
武道系 (剣道部、柔道部、弓道部など)	8.681	5.830	6.091	6.000
個人競技系 (陸上部、水泳部、体操部など)	9.861	9.357	8.027	8.214
ラケット競技系 (テニス部、卓球部、バドミントン部など)	8.847	8.632	6.896	8.058
球技系 (サッカー部、野球部、バスケットボール部など)	9.821	10.754	7.225	7.852
(部活動には所属していない)	8.014	—	5.800	—
全体	9.143	9.361	6.658	7.524

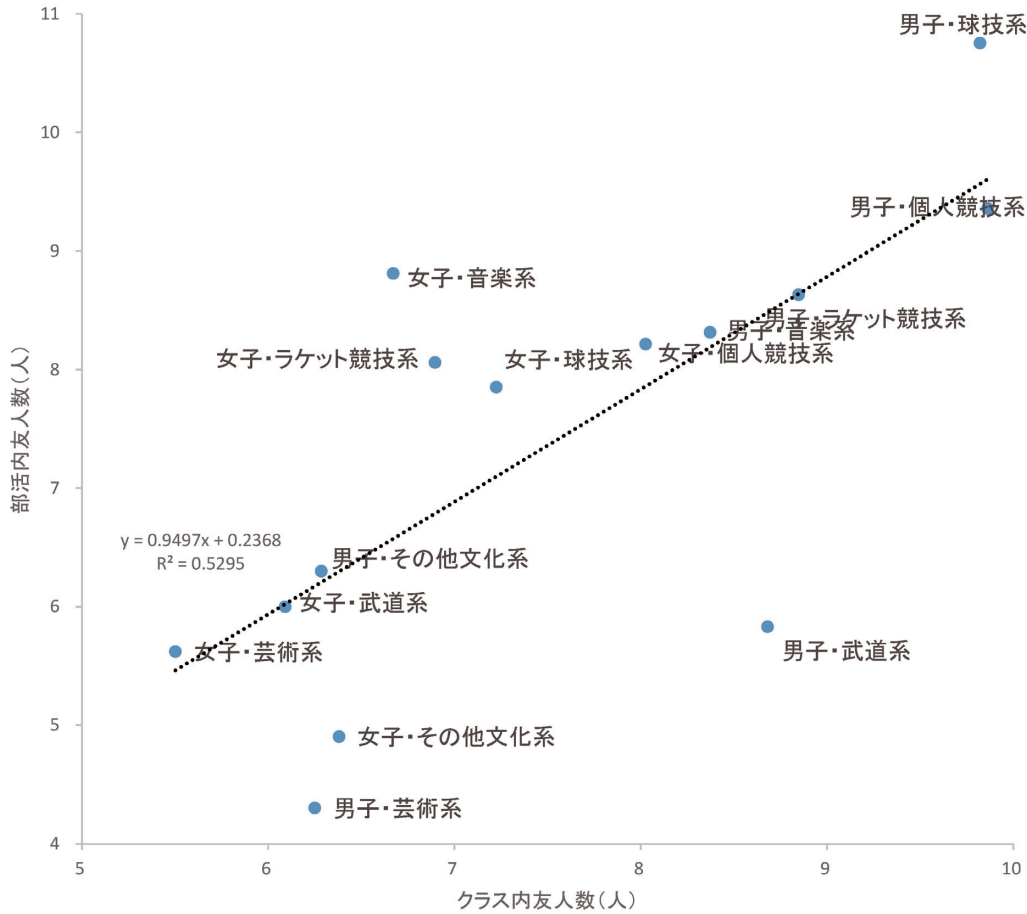


図3 クラスの友人数×部活動の友人数

道系」は、クラスを中心とした交友関係を築いていることが読み取れる。その逆の傾向として、部活内の友人が多く、クラス内の友人が少ない部活動としては、「女子・音楽系」「女子・ラケット競技系」などが挙げられる。これらの部活に所属している生徒は、学級中心の交友関係を築いていることが考えられるだろう。

一般に、団体競技を経験することで協調性が生まれ、友情が築きあげられると言われることがあるが、本稿の分析からは、そのような傾向は確認できなかった。ただし、本分析では、各学校の部員数や学級規模を統制した分析を行っていないため、一般化した結論を導くことは難しい。その点には、注意が必要である。

5. 結語

最後に本稿で得られた結果を整理し、今後の課題を述べたい。

第一に、部活動のコミットメントが平均的に高い部活動に所属している生徒ほど、部活動への満足度は高

くなるが、部活動の満足感が、学校生活への満足度には、必ずしもつながらないということである。たとえば、分析の結果を振り返ると、「女子・武道系」や「男子・音楽系」の部活動に所属している生徒は、部活動に満足している傾向が示されていたが、他の部活動に所属している生徒に比べて、学校生活の満足度は高くないことが示されていた。逆に、部活動にはそれほど満足していない「女子・その他文化系」の部活動に所属している生徒は、部活動に満足していない傾向がある一方で、学校生活の満足度は高い傾向にあることが確認されている。

第二に、クラス内友人数が平均的に多い部活動ほど、部活内の友人数も多い傾向にあることがわかったが、部活内の友人数が少ないにもかかわらず、クラス内の友人数が多い「男子・武道系」の部活動や、部活内の友人数は多いにもかかわらず、クラス内の友人数は少ない「女子・音楽系」や「女子・ラケット競技系」などの部活動があることが示された。これらの部活動に所属する生徒は、一方の人間関係を重視する傾向にあ

るか、あるいは、一方の人間関係を重視せざるを得ない環境に置かれている可能性がある。

いずれにしても、本稿の知見からは、生徒の部活動の効果を検討する際には、「運動部」や「文化部」といった二分だけでなく、活動形態によって検証する意義があらためて確認されたということになる。

本稿の課題としては、まず、7つのカテゴリーの部活動に分類したことにより、1つのカテゴリーのサンプルサイズが著しく小さくなり、結果を一般化できないということが挙げられる。また、部活動の友人関係などを検討する際には、それぞれの学校の部活動内容や顧問との関係、また部員数などを把握する必要があるが、本稿の分析に用いたデータからは、その点の検証はできない。本稿の知見は、あくまでも仮説にとどめておき、綿密なサンプリングと豊富な質問項目が含まれた大規模調査によって、さらなる検討を加える必要がある。

また、本稿で示された知見がどのようなプロセスを経て、このような傾向にあるのかということは、質問紙調査の分析からではわからない。この点に関しては、中長期的なフィールドワークやインタビュー調査によって、明らかにする必要があるだろう。

とは言え、本稿は、これまで詳細な検討がされてこ

なかつた部活動を活動形態に即して分類し、学校生活との関連性を実証的に検討したという点において、これまでには指摘されてこなかつた点を明らかにすることができたと考えられる。残された課題の検討を行い、さらに分析を進めていく必要がある。

〈引用・参考文献〉

- 藤田武志, 2006, 「生徒の部活動への関わり方」西島央編『部活動—その現状とこれからのあり方』学事出版, pp.21-40.
- 文部科学省, 2008, 『中学校学習指導要領 平成20年3月告示』東山書房。
- 岡田有司, 2009, 「部活動への参加が中学生の学校への心理社会的適応に与える影響—部活動のタイプ・積極性に注目して」『教育心理学研究』第57巻第4号, pp.419-431.
- 竹内俊一・本田礼・本田優子, 2014, 「学校吹奏楽部の活動に関する実態調査(2)—アンケート調査を通して」『兵庫教育大学研究紀要』第45号, pp.101-110.
- 東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse教育研究開発センター編, 2011, 『神奈川県公立中学校の生徒と保護者に関する調査報告書』
- 内田良, 2015, 『教育という病—子どもと先生を苦しめる「教育リスク」』光文社。
- 矢野博之, 2006, 「部活動のなかの生徒の人間関係」西島央編『部活動—その現状とこれからのあり方』学事出版, pp.56-71.

(すずき しょう・うたがわ こういち・かなざわ たかゆき)